

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価及び
地域公共交通計画の評価結果 概要（全体）

飛騨市公共交通会議 (飛騨市)

平成18年11月 9日 設置

令和 3年 3月30日 飛騨市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和3年3月～令和8年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

評価対象期間（令和5年10月～令和6年9月）

1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

【主な方針】

最低限のサービス水準を極力確保し、持続可能な地域公共交通網を形成し、維持する。

【目標】

- 整備・運行 : 市民のQOLの保障（通学・通院・買物の足）
- 持続性 : 一定の事業費内で維持、一定の収支率、利用者数の維持
- 利用促進・啓発 : 市民の理解度向上、意識改革、観光客の満足度向上

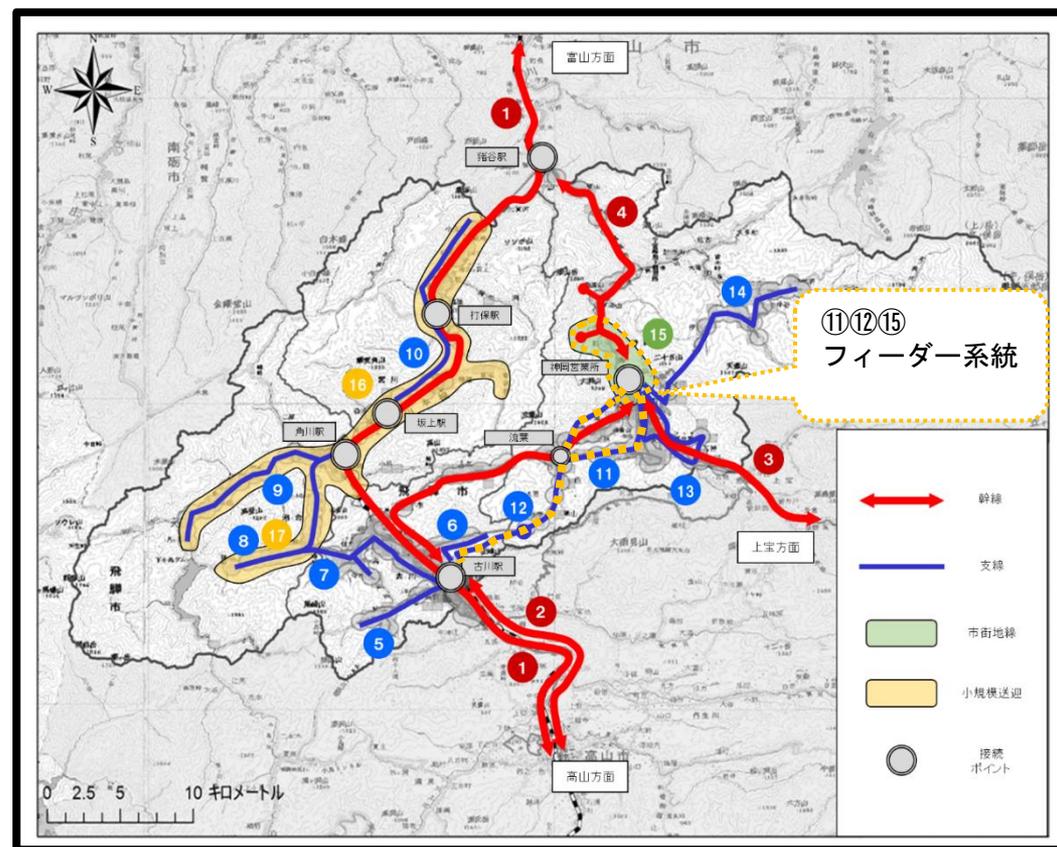
【期間】

飛騨市地域公共交通計画

: 令和3年3月～令和8年3月

地域の特性

古川町	町の中心部は平地であり、過去より公共交通を利用して移動する文化がない。
河合町 宮川町	人口が少なく、集落が点在している。デマンド運行実施。
神岡町	町内全体が起伏の多い地形であり、高齢者が徒歩だけで生活するのは困難。公共交通の利用が多い。



事業名	内容	実績・効果
<p>①河合町宮川町公共交通網再編事業</p>	<p>各地域との意見交換会（①-1）を踏まえ、策定した再編方針に基づき、各運行事業者と調整を行い、JRを補完する役割として河合町・宮川町から古川町へバスが運行する交通網へと再編。（R6.10改正）</p>	<p>●公共交通機関の拡充（移動手段の選択肢増加）</p>
<p>①-1 各地域との意見交換会の開催</p>	<p>再編に向け、地元住民から幅広く意見を聴取するため、河合町・宮川町内の各地域及び高齢者サロンにて意見交換会を実施。</p>	<p>■合計8回開催 延べ85名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の意見聴取 ・利用状況の周知
<p>①-2 公共交通説明会の開催</p>	<p>改正内容を詳しく説明するため、9月に開催河合町、宮川町で各2回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス時刻に合わせた開催時間 ・お試し利用券の配布 ・モニターツアー開催の周知（R6.10実施） 	<p>■合計4回開催 27名の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な公共交通の周知 ・利用方法の伝達 ・公共交通への関心の向上 ・新規利用者の獲得

意見交換会の様子



～おてかけをより便利に！～

宮川方面から古川までの直通バスが運行！

宮川町公共交通説明会を開催します！

令和6年10月10日から宮川町内バス路線の一部を改正します。本説明会では、具体的にどのように変わるのか説明いたします。

日時	場所
令和6年9月20日(金) 第1回 10:00～11:00 第2回 14:30～15:30	宮川町公民館 2階 会議室
説明内容	アクセス
<ul style="list-style-type: none"> ・宮川町の公共交通網について ・路線の運行経路、時刻の見直し内容 ・公共交通に関する飛騨市の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ① 宮川町公民館 2階 会議室 ② 大黒山方面から河合町公民館まで ③ 大黒山方面から宮川町公民館まで ④ 大黒山方面から河合町公民館まで

ご参加特典
ご参加いただいた方には、お試し乗車券をプレゼント！

詳細に関するお問い合わせは、河合町公共交通の連絡先（河合町役場）：0577-75761

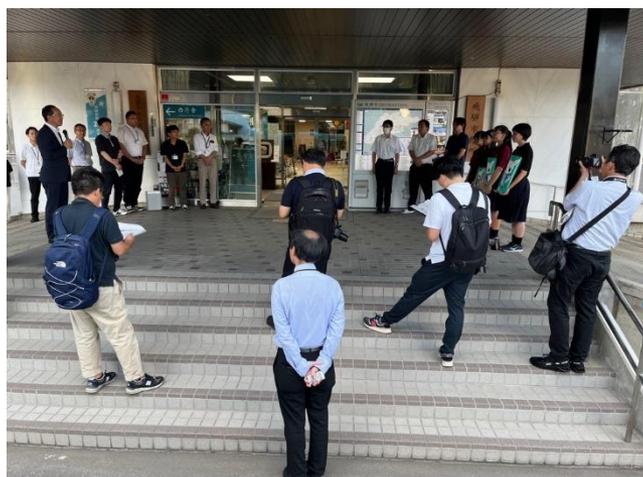
2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

事業名	内容	実績・効果
②神岡町内公共交通網再編	町内の市営バス路線の経路及び時刻を調整し、市街地内には30分に1本バスが運行する公共交通網へと再編（対象路線：かみおかぐるりんバス、山之村線、神岡東部線、吉田線、神原線）	<ul style="list-style-type: none"> ●対象路線の利用者数 R5.10～R6.9 22,279人 R4.10～R5.9 21,268人 同期前年度比 104% （参考：R3.10～R4.9 18,469人）
③交通拠点の整備	<p>飛騨古川駅バス停は、民間バス路線と市営バス路線でのりばが分かれているが、場所が離れており、待合所から確認できない問題を解消するため、<u>わかりやすく方面別にのりばを整備</u>。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のりば案内板の設置（のりば1・2） ・バスのりば案内サインを設置（全4か所） ・点字ブロック再整備 ・待合所内はデジタルサイネージを設置予定（R7.3予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい案内表示 ・利便性の向上



事業名	内容	実績・効果
④通学利用の促進	<p>中学3年生を対象の高校体験入学日に使用できるバス無料券を配布し、通学から体験してもらうことで通学方法を考える機会とした。(R3より継続実施)</p>	<p>R6 配布枚数188名 利用者数延べ67名 (過去実績R5:83名 R4:86名)</p>
⑤市内高校との連携	<p>昨年度、実施した吉城高校生とのワークショップにおいて提案のあったバスキャラクターを選挙のうえ決定し、発表セレモニーを実施。 ⇒キャラクターは市営バス車両に掲示</p>	<p>6月総選挙 9月セレモニー開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バスへの愛着の情勢 ・公共交通への理解度向上

市営バスキャラクター発表セレモニーの様子



3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

区分	目標 (R6末)	目標	実績	評価
整備 ・ 運行	市民のQOLを確保	通院・買物・通学における公共交通カバー率 100%	【通院】 96.3% 【買物】 96.3% 【高校通学】 95.4%	△
持続 性	利用客数の維持	42,500人 (全体)	36,992人 各路線別の数値は次ページ	△
	収支率の維持	5% (全体)	4.0%	△
	事業費の抑制	1億5千万円 (全体)	1億9654万円	×
利用 促進 ・ 啓発	市民の理解度の向上	市民と協働したイベント(セミナー、住民懇談会等)の実施回数 年4回以上	・河合町公共交通網説明会 (R6.9 2回開催15名参加) ・宮川町公共交通網説明会 (R6.9 2回開催12名参加) ・各地域での住民懇談会・説明会 (延べ8回開催:85名参加)	○
	公共交通の維持に協力する市民の比率向上	上記目標に定めるイベントへの参加者数 合計100名以上		○
	おでかけの手段としての認識向上	ひだしおでかけ時刻表及びマップの区長配布 年1回以上 広報ひだによる記事掲載 年4回	時刻表・マップの配布 9月15日 約8,500世帯配布済み 広報ひだ3月号、9月号記事掲載 チラシ配布(市内回覧)3月、8月、9月	○

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

【各路線の利用人数】 (フ) : フィーダー系統補助対象

単位 : 人

路線名 ※フィーダー補助路線	目標値	R6年度 利用客数	R5年度 利用客数	R1年度 利用者数	対前年比	対R元年度比
神岡猪谷線 (幹線)	6,000	3,209	3,924	4,228	81.78%	75.89%
畦畑線	1,000	550	840	951	65.47%	57.83%
太江線	1,000	1,307	1,011	1,079	129.27%	121.13%
桃源郷線	4,800	3,393	4,676	4,788	72.56%	70.86%
稲越線	500	31	61	918	50.81%	3.3%
月ヶ瀬線	2,850	925	1,232	3,030	75.08%	30.52%
宮川線	2,100	799	969	1,847	82.45%	43.25%
吉田線 (フ)	5,500	5,477	5,473	—	100.07%	—
神原線 (フ)	1,500	2,275	1,981	1,284	114.84%	177.18%
神岡東部線 (殿循環線含む)	2,300	2,686	2,738	2,417	98.10%	111.12%
山之村線	1,450	956	1,245	1,329	76.78%	71.93%
かみおか循環線 (フ) (かみおかぐるりんバス)	10,000	10,885	9,831	9,864	110.72%	110.35%
河合・宮川乗合タクシー	2,500	3,377	3,005	1,972	112.37%	171.24%
稲越乗合タクシー	1,000	1,122	1,183	—	94.84%	—
合計	42,500	36,992	38,169	33,707	96.91%	※90.16%

A:30,393 (R6吉田線・稲越乗合タクシー除く)

※Aとの比較

【各地域別の利用状況の考察】

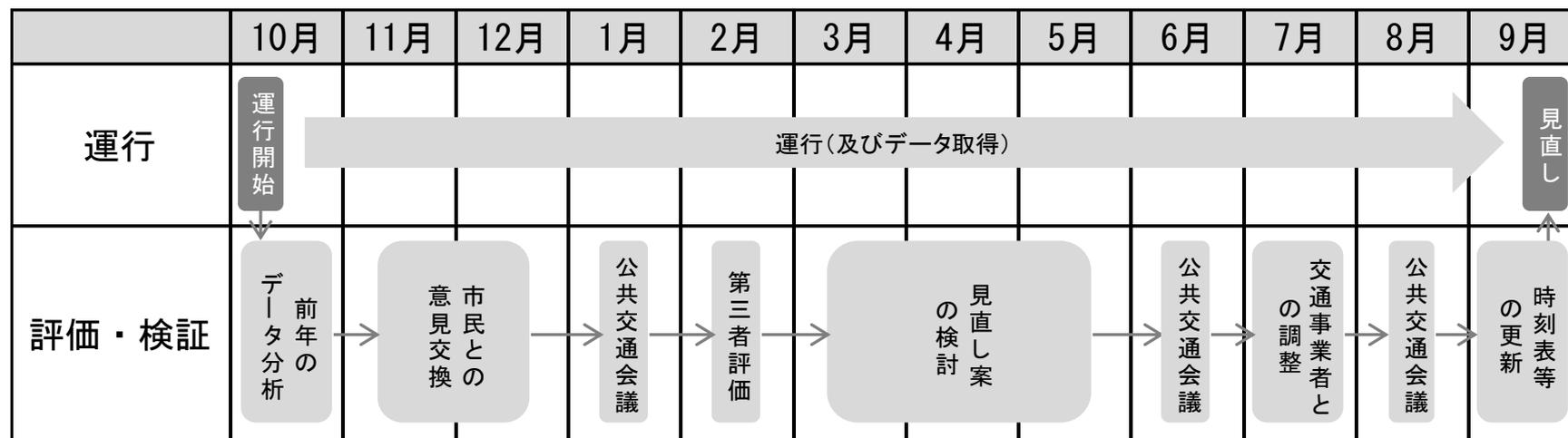
地域	考察と今後の取組
古川町	<p>高校通学等の定期利用者数によって毎年利用者数変動している。今年度の大幅な減少についても通学利用者数の影響が大きい。<u>高校通学以外では、病院デマンド便（希望により市街地内医療機関まで運行）により通院しやすい路線である一方で買い物はしにくい路線となっている。</u>⇒R6.10再編により、一部の路線でこれまでバスで行けなかった商業施設まで経路を延伸させたことから、利用状況の把握に加え、買い物利用便の拡充に向けて路線見直しを検討する。</p>
河合町 宮川町	<p>地域内の利用者数は、乗合タクシーは増加、バスは減少している状況が続いている。 ⇒地域各地で実施した意見交換会を踏まえ、<u>R6.10再編よりJRを補完する役割として古川町まで路線を延伸</u>させたことから、利用状況調査を重点的に実施しながら、状況把握に努めるとともに定期的な情報発信していく。</p>
神岡町	<p>地域全体の人口は年々減少している中であるが、町内全体のバス利用者は、<u>昨年度に引き続き増加する結果</u>となった。路線によっては、増減があるもののR5.10再編の成果が得られているものと考えている。 ⇒この水準を維持できるよう幅広い情報発信、利用促進を実施していく。</p>

区分	目標	計画達成に向けた今後の取組
整備 ・ 運行	市民のQOLを確保	<u>ドライバー不足が大きな問題となっており、このままでは、路線の運営ができない事態に追い込まれる</u> ことが明らかであることから、ドライバー確保体制の構築に向けた検討を行っていく。
持続 性	利用客数の維持	<u>路線を見直した路線は、利用者数の増加につながっており、</u> この水準を維持できるよう利用促進に取り組む。 利用者が低迷している路線については、見直しを実施する。
	収支率の維持	昨年度と比較し収入額は増加しているが、燃料費・人件費高騰の影響により、それ以上に事業費が増加している状況にある。今後の見通しも立たないことから、目標値設定の見直しを検討する。
	事業費の抑制	
利用 促進 ・ 啓発	市民の理解度の向上	広報ひだや区長配布などを活用し、継続して情報発信や利用促進事業を実施していく。他団体への協力を求め、バスの乗り方教室を兼ねた公共交通ツアーやセミナーなど市民参加型のイベント等を実施し、市民の理解度向上に努める。 ⇒ <u>公共交通機関全体の露出を増やしていく。</u>
	公共交通の維持に協力する市民の比率向上	
	おでかけの手段としての認識向上	

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	公共交通に対する理解や利用を促進する取組については、開催回数や参加人数の把握に加え、対象者に伝わっているか、その後の利用につながっているかなど、引き続き、分析・検証し、今後の取組につなげていかれることを期待します。	路線再編の際には、地元説明会を開催しており、今回はこれに加えてバスの乗り方教室を兼ねたモニターツアーを計画し開催した。	モニターツアーは、参加者から好評を得ており、今後は各団体との連携し、市内行事において、公共交通と組み合わせた企画を計画し実施していく。
	運転手不足による路線の維持といった課題について、引き続き、運送事業者とコミュニケーションを図り、人材確保や育成に係る取組や支援を検討され、公共交通の確保維持に努められることを期待します。	運転手不足は、重点課題と捉え、各運行事業者とのヒアリングを実施。交通事業者に対する新たな補助事業を創設し、支援策を拡充した。	事業者における具体的な問題を精査し、ドライバー確保体制構築に向けて、抜本的な対策を検討していく。
	令和5年度に実施されたルートやダイヤの見直しについては、利用状況や利用者の声など可能な範囲で分析や検証を進め、その効果を確認し、更なる取組に活用されることに期待します。	神岡町内を中心に乗込調査、聞取調査を随時実施し、利用状況の把握に努めた。	利用状況調査は引き続き実施していく。
前々回	地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、利用促進や系統維持に向け関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。	輸送量が低迷している神岡猪谷線に関して、デマンド便の導入により、JR線との接続本数の増加を計画したが、ドライバーの確保ができないため、見送りとなった。	ドライバー不足は、喫緊の課題であり、行政としての支援を拡充するとともに、課題解決に向け、最優先で取り組んでいく。
	路線の見直しに際しては、引き続き利用者や住民から課題やニーズを聞き取り、利用目的や利用したい施設をしっかりと把握した上で検討が進むことを期待します。	神岡地域に続き、今後路線見直しを予定している河合宮川地域で住民懇談会を開催し、見直し方針を策定。見直し方針に基づき、関係者と詳細の調整を行いR6.10より見直しを実施。	古川町内の公共交通網に向け、住民懇談会を開催し、見直し方針を策定したうえで、見直しに向けて実施していく。

※前回：令和6年3月21日、前々回：令和5年3月10日

毎年実施するPDCAの推進サイクル（地域公共交通計画より）



直近1年間の公共交通会議の開催実績

開催日	主な協議事項
令和6年1月18日	<ul style="list-style-type: none"> 河合町及び宮川町公共交通網再編方針について 濃飛バス幹線バスの見直しについて
令和6年6月16日	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度予算案、事業計画について 地域公共交通確保維持事業について
令和6年8月23日	<ul style="list-style-type: none"> 河合町及び宮川町の公共交通網再編について ひだまる桃源郷線の路線見直しについて
令和7年1月15日	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通計画の評価について

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月15日

協議会名: 飛騨市公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改善補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
濃飛乗合自動車(株)	<p>神原線 【運行区間】</p> <p>①濃飛バス神岡営業所～寺林公民館～柏原パーキング～飛騨古川駅 ②割石温泉～寺林公民館～柏原パーキング～飛騨古川駅 ③濃飛バス神岡営業所～神岡小学校～柏原パーキング</p>	<p>【前回の事業評価結果】 前年度実施された路線見直しについて利用状況や利用者の声など可能な範囲で分析や検証を進め、その効果を確認し、さらなる取り組みに活用されることを期待します。</p> <p>【反映状況】 随時、乗込調査・聞取調査を実施し、利用状況や利用者の声の把握に努めた。</p>	A 事業が計画に基づき、適切に実施された。	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用客数:1,500人 ・収支率 :6.38%以上※対象路線全体 <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用客数:2,275人(前年1,981人) ・収支率 :全体6.99%(前年6.73%) ※路線単体2.8%(前年2.4%) <p>●利用客数【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年比114.8%と増加しており、古川町から神岡への利用者など新規利用者の増加によるものであると考えられる。 <p>●収支率【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者増加に伴い、路線単体の収入額も前年比113%で増加した。 	<p>運行開始以降、年々利用者が増加している状況であり、本路線は特に様々な目的で利用されるようになってきているため、利用状況調査を引き続き実施し、状況把握するとともに、定期的な情報発信と利用促進事業を実施していく。</p>
濃飛乗合自動車(株)	<p>吉田線 【運行区間】</p> <p>①濃飛バス神岡営業所～飛騨市民病院～飛騨神岡高校～流葉スキー場 ②濃飛バス神岡営業所～飛騨市民病院～飛騨神岡高校～吉田精米所前 ③割石温泉～濃飛バス神岡営業所</p>	<p>【前回の事業評価結果】 前年度実施された路線見直しについて利用状況や利用者の声など可能な範囲で分析や検証を進め、その効果を確認し、さらなる取り組みに活用されることを期待します。</p> <p>【反映状況】 随時、乗込調査・聞取調査を実施し、利用状況や利用者の声の把握に努めた。</p>	A 事業が計画に基づき、適切に実施された。	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用客数:5,500人 ・収支率 :6.38%以上※対象路線全体 <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用客数:5,477人(前年5,473人) ・収支率 :全体6.99%(前年6.73%) ※路線単体4.7%(前年5.1%) <p>●利用客数【未達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者は前年度比100.1%と横ばいであり、目標値まであとわずかとなった。 <p>●収支率【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者は横ばいの一方で、定期券利用者の増加により、収入額は微減となった。 	<p>年間利用者数は、横ばいな状況が続く、維持できている状況である。 本路線は、飛騨神岡高校を経由する路線であり、高校生の通学利用も一定数あるため、高校とのワークショップを実施し、高校生の声を取り入れた路線維持に努め、継続して利用促進、情報発信を実施していく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月15日

協議会名: 飛騨市公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
飛騨市	かみおか循環線 系統2 【運行区間】 神岡振興事務所～旧奥飛騨温泉口～濃飛バス神岡営業所～割石温泉～神岡振興事務所	【前回の事業評価結果】 前年度実施された路線見直しについて利用状況や利用者の声など可能な範囲で分析や検証を進め、その効果を確認し、さらなる取り組みに活用されることを期待します。 【反映状況】 随時、乗込調査・聞取調査を実施し、利用状況や利用者の声の把握に努めた。	A 事業が計画に基づき、適切に実施された。	A 【目標】 ・利用客数:10,000人 ・収支率 :6.38%以上※対象路線全体 【結果】 ・利用客数:10,885人(前年9,831人) ・収支率 :全体6.99%(前年6.73%) 路線単体19.0%(前年15.4%) ●利用客数【達成】 市民病院及び割石温泉への移動の増加により、利用者は前年比110.7%と増加 ●収支率【達成】 利用者増加に伴い、路線単体の収入額も前年比113%で増加した。	本路線は、神岡町内を運行する市営路線の中でも利用者の多い路線であるが、前年の路線見直しにより、利用者数は増加し、過去最高となった。神岡町内全体のバス利用者数は近年増加傾向にあり、この水準を維持できるよう利用状況調査を引き続き実施し、状況に応じた取組を実施していく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月15日

協議会名:	飛騨市公共交通会議
-------	-----------

評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
----------	----------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>飛騨市は岐阜県最北端に位置し、北は富山県、南は高山市に接し、市内及び富山市、高山市が日常の生活圏となっている。面積792.53km²、人口21,749人(R6.12.1現在)、高齢化率40.05%と広大な市域において人口減少及び高齢化が進んでおり、高齢者等でも利用しやすく、かつ、市内及び市外への生活の移動に利用することのできる地域公共交通を維持確保していくことが重要課題である。</p> <p>飛騨市公共交通網形成計画策定時(H27.3 25,855人)と比較し、約12.8%の人口減である。</p> <p>地域公共交通の利用者数は、網形成計画策定初年度から比較すると次年度以降は増加し、その後は平成30年度を境に減少傾向にあったが、網形成計画及び再編実施計画に伴う事業実施により、路線、利用環境等が整備されて地域に定着したことで一定の利用者を得られている。</p> <p>令和3年3月に網形成計画の後継計画である飛騨市地域公共交通計画を策定し、それまでの路線網では非効率な部分や、地域住民のニーズに合わない部分が散見されたことから通学や通院・買物移動のサービス水準は担保しつつ、「持続可能なサービスの確保・充実」「成長する地域公共交通サービス」「まちづくりへの寄与、上位計画との整合性」を方針として維持・改善を進めることとしている。</p> <p>令和5年10月に地域住民との意見交換会での意見やバス利用者への聞き取り調査による声を可能な限り反映し、神岡町市街地内のバス路線を大きく見直し利便性を向上させた。その結果、前年比104%と増加につながった。</p> <p>今後、利用者となる市内人口が減少していく中、地域住民・利用者のニーズを幅広く聴取したうえで、そのニーズに対応できる路線へと見直ししていく必要がある。また、これまで利用されなかった市民や市外からの来訪者など、地域公共交通を維持確保していくことに対する市民の理解や市内外への利用促進を強化していくことがである。</p>
-----------------------------	---